

## 行政の窓

### 木造公共施設の整備と道産CLTの利用拡大について

道や市町村では、利用期を迎えた人工林材を利用して森林資源の循環利用を進めるため、「地域材利用推進方針」を定めて公共施設の木造化・木質化を促進していることから、優れた木造公共施設の事例が増えています。

上士幌町の生涯学習センター「わか」では、町産カラマツを使用した集成材等を現しにするなど、利用者が木の温もりを肌で感じられる空間を作り出した意匠性のほか、町内に分散していた学童や高齢者向け施設等の機能の統合などが、地域社会の発展に貢献する建築として評価され、平成30年度赤レンガ建築賞（主催：（一社）北海道建築士会や道など）を受賞しました。

また、中高層の建物等に利用されることで木材の需要を一層拡大することが期待されるCLT（直交集成板）について、道では、平成29年3月に策定した「道産CLT利用拡大に向けた推進方針」に基づき、平成30年度には、需要の拡大に向け、ホテルや共同住宅等での利用を促進するため、カラマツCLTの床の遮音性能を向上させる工法の開発や、供給体制の整備に向け、生産規模別の設備投資額や生産コスト等の試算を行うなどの取組を行っています。

このほか、道総研林産試験場と連携し、性能試験で得られたデータを国に提供することで、国が定めるCLTパネル工法の構造計算に用いる基準強度に、カラマツ・トドマツに相当する強度区分を追加する国の告示が平成31年3月に施行され、強度の高いカラマツ・トドマツCLTを使用した合理的な設計が可能になりました。

今後、道では、市町村における木造公共施設の整備を支援するとともに、カラマツ・トドマツCLTの優位性や建築事例のPR、設計・施工ができる技術者の育成など、CLTの利用拡大に向けた取組を進めていきます。



生涯学習センター「わか」（上士幌町）



境野公民館（置戸町）＜壁にCLTを利用＞



認知症高齢者グループホーム（足寄町）  
＜壁にCLTを利用＞

#### 【令和元年度（2019年度）の道の取組】

道では、CLT等の道産木材の利用拡大に向けて、企画・基本設計段階での技術支援のほか、国の交付金等を活用しながら、木造公共施設の整備を支援していきます。

また、トドマツCLTの床衝撃音遮断性能に関する調査研究、CLT建築を設計・施工できる技術者を育成する研修会の開催、イベントやセミナーを通じた幅広い周知など、需要の創出に向けた取組を中心に進めていきます。

（水産林務部林務局林業木材課利用推進グループ）